



患者中心の医療制度を目指して

米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

日本代表 アイラ・ウルフ

米国研究製薬工業協会 (PhRMA) は2006年1月16日、新たな日本代表にアイラ・ウルフ氏を任命、同氏は2月1日に着任しました。ウルフ氏は日本代表としてPhRMAの日本国内における活動を統括し、日本の行政や経済・医療政策案件に関して、米国の研究開発型製薬企業とバイオテクノロジー企業の意見を代弁します。

ウルフ氏は米国国務省に17年間勤務した後、民間部門のみならず米国政府の行政・法律機関で様々な重職を歴任しました。1992年から95年にかけて米国 通商代表部 (USTR) 代表補として日本と中国を担当したほか、ジョン・ロックフェラー上院議員とマックス・ボークス上院議員のアドバイザーを務め、また イーストマン・コダック社の対日広報担当副社長にも起用されました。

### ウルフ代表からのメッセージ

現在の日本の医療制度とその改革は、人口統計上の変化や急速に進む高齢化社会における高いQOLの提供、そして人々の健康と生産性の両方の確保などの難問に直面しています。医療費抑制にのみ焦点を当て、短期的な財政面の問題解決を目指す制度は、患者を考慮していないばかりか社会や国民にとって有益ではありません。医療への支出は単なる予算上のコストではありません。それどころか国民と社会にとって大切な投資なのです。疾患により引き起こされる甚大な人的・経済的・社会的コストは、予防的措置や早期発見・早期治療、適切な投薬などにより大きく減らすことができます。もし政府が適切な予防と疾病対策を講じ、新しくよりよい治療法へのアクセスを確保しなければ、これらのコストは急速に進む高齢化に伴って更に上昇してゆくことでしょう。

PhRMAの基本理念は「患者中心の医療制度」の構築です。PhRMAは、現在進められている医療制度改革において今後注力してゆかなくてはならない重要な項目について以下のように考えます。

1. 患者に焦点をあてた医療制度の構築
2. 医療制度における効率性の追求
3. 医薬品への容易なアクセス

私はPhRMAの新しい日本代表として、こうした様々な問題の解決に関わり、日本の皆様の健康維持・促進に貢献できるよう切に望んでおります。